

予想を超える21ブースで どどーんと初・開催!

「こ・あきない市」は、tsumiki から利府町の小商いのマインドをつくってこうという試みでした。「こ・あきない」には、小さな商いをみんなでやる (Co) という意味が込められています。当初10ブースの出店者募集に対し、2倍を超える応募がありました。それも、約8割が利府町の方だったことはうれしい誤算。町に埋もれていた人材や資源が、一気に表に現れたという勢いを感じました。結局、21ブースの出店を決定。多少販売スペースが狭くなっても、多くの方にチャレンジしてもらう場を提供しようということになりました。

当日は、来場者、出店者あわせて300人ほどがtsumikiに集結。まさに「冬の陣」にふさわしい、熱気あふれるチャレンジマーケットとなりました。

冬の陣

こ・あきない市

チャレンジマーケット2017
2/26 開催

常識にとらわれていては、新しい価値は生まれない。
創造性と想像性が未来をつくる。
チャレンジをとがめる人はいない。
街へ出よう。

店の名前の「カルロッタ」って、イタリア語で自由人という意味なんです。女性向けのキラキラしたものが売れました。皆さん優しく声をかけてくれて、私の話もよく聞いてくれました。すごく楽しかったです!

めっちゃかわい。
めっちゃいいやん!

アクセサリ
カルロッタ
Carlootta

くるみの森
野生動物写真・小物

3人でそれぞれ得意な作品をつくっています。お客さんの年齢層も幅広く、利府の方がたくさん来てくれて楽しかったです。それに、tsumikiの雰囲気がとてもよかったです。

ココロハウス
がま口・ワイヤー雑貨・布小物
kokko house

手づくりすごい!
最高じゃないですか

おもしろかったです!初めての出店だったので、一個も売れなかったらどうしようと思っていたけど、思いのほか売れたのでうれしかったです。子育て中の私でも参加できて、とてもいい経験になりました。またやりたいです。

けしむハンTom
アクセサリー
kurumi*

アクセサリ
Dandan

子どもたちも
いっぱいやん!

地元の利府開催ということで、小学生の子どもの同級生のお母さんたちや顔見知りがたくさん来てくれました。作品に興味をもってくれて、一つひとつ説明しながらお話しすることができてよかったです。

Bagel and Bread spica
アクセサリ
パン

スペシャルブースは、利府町青葉台にお店を開いているパン工房「spica」。販売を开始すると、あっという間に売り切れてしまいました。いつも、大人気のパン屋さんです。

マーケット100点満点!

「最高です。みんなが集まる場所になって、すごいなあって思います。これからも、どんどんつながってほしいですね。」と意外にきれいにコメントをまとめた小谷さん。「お腹がすいた!寿司が食べたい」と出店者のINAGO BALLさんと連れ立って、利府駅前の寿司屋ウサ見さんへとお出かけしました。

今回初めて開催した「こ・あきない市」。来場者からは、継続的、定期的に開催して欲しいとの声が多く聞かれました。一方、出店者からは、面白かった、楽しかっただけでなく、販売スペース、開催時間、広報の仕方や告知期間などにも工夫の余地があるという意見や提案が挙がって頼もしい限り。今回を起爆剤として「利府町に、こ・あきない市あり!」というマーケットに、皆さんと一緒に育てていきたいですね。利府町のワクワクはこれからです。

tsumiki の rireki

利府町まち・ひと・しごと創造ステーション tsumiki は、2016年6月から9月までの間、全8回行ったワークショップ(町民参加型の話し合い)の場が母体となって誕生しました。毎回テーマを設け、若手を中心に企業・学生・NPO スタッフ・行政職員といった多様なメンバーが集い議論を重ねてきました。tsumikiには、ワークショップの中で生まれた意見やアイデアが反映されています。まさに町民による町民のための施設です。3回に分けてお話ししてきたtsumikiができるまでは、今回が最終回です。

語り手 ● tsumiki ディレクター 橋生和成

最終話

長いようで短い5ヶ月

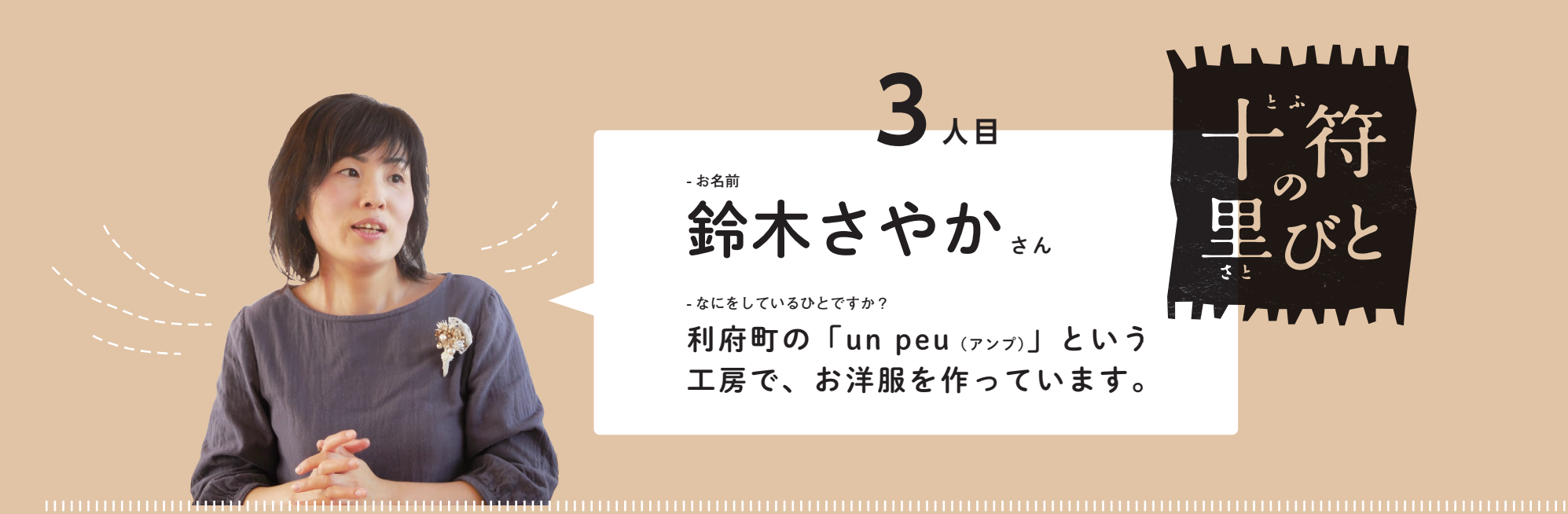
9月のテーマは「フリーペーパー」とtsumikiで提供する「ドリンク」について。特にフリーペーパーについては、「つみきのキモチ」のアイデアの種がたくさん出た出発点ともいえます。

ただ9月になるとワークショップの参加者も減り、限定的になってきました。月2回というペースで話し合いが続く参加者にとっても苦しい段階だったのではないのでしょうか。そんな中で粘り強く参加してくれたのが大学生の皆さんです。

前回まであまり触れてきませんでしたが、ワークショップ全体では大学生の力が大きかったです。宮城大学や東北学院大学、宮城教育大学から学生の参加があり、首都圏の大学に通いながら長期休みを利用し、わざわざ参加する利府町出身の学生もいました。特に利府町と連携協定した宮城大学からは、風見正三先生をはじめ多くの学生の参加がありました。町民と大学と自治体が連携し、このようなプロジェクトを推進するという事例は、他の地域でもあまり見受けられない稀なケースだと思います。

さて、このコーナーは今回で最終回となりますが、tsumikiの運営はこれからも続きます。まだまだ課題も多く残されています。時間の関係でワークショップの中で議論を深められなかったことは、利用者の皆さんと少しずつ改善しながら、新しい公共施設運営の形を模索し続けたいと思います。





3人目 鈴木さやかさん

～お名前
～なにをしているひとですか？
利府町の「un peu（アンプ）」という
工房で、お洋服を作っています。

十の
符の
里びと
さと

洋服と笑顔を紡ぐアーティスト

世界に一つだけの 洋服を

「un peu」で販売するのは、リネンやコットンで作られたナチュラルティストの洋服です。商品紹介のカタログには、無地のブラウスや花柄のワンピースなど、さまざまな女性向けの洋服が並びます。これらの洋服はすべて鈴木さんの手作り。SELVA（セルバ）や仙台PARCO（パルコ）などを会場として開催されるイベントや受注会を通じて購入することができます。

販売の基本は、オーダーメイドの一点物。鈴木さんは「人と違うというのが手作りの良さです。せっかく購入したのに他の人と色やデザインが被ってしまったのは、買った人も嫌な気持ちになってしまうでしょう」とその理由を説明します。だからその人に合ったオリジナルの洋服を作るため、「受注会では、一人ひとり丁寧にお話を伺ってからオーダーを受けます」。

注文を受けた後は、自宅の一室に設けられたアトリエで洋服を作ります。作業スペースは3畳ほど、鈴木さんが一人で作成するため一日にできる作業は限られています。さらに、1回の受



注会で10～20件ものオーダーが入るため、注文を受けてから買った人の元へ届くまで1ヶ月以上かかることもあります。それでも、鈴木さんの作る服はファンが多く好評です。購入者からは「着心地が良い」という声が届きます。

裁縫が苦手？ ゼロからの スタート

鈴木さんは、意外にも裁縫は苦手だったというから驚きです。「中学校の時は、家庭科の宿題を姉に丸投げするほどでした」と笑います。そんな鈴木さんに転機が訪れたのは2004年。「幼稚園に通っていた息子のために、ジャンパーを作ってあげたい」と思ったことがきっかけでした。

親しくしていた息子の同級生の母親に、裁縫を教えてもらうことになりました。「知識や技術もない私に、根気よく教えてくれて感謝しています」と互いにミシンを持ち寄って製作した当時は振り返ります。失敗を繰り返しながらも、努力の甲斐があって手作りジャンパーが完成。息子に手渡すことができた時「洋服って作れるんだ」と感動したといいます。昔から熱中しやすいタイプだったという鈴木さん。それからはミシンに向かっていく時間が楽しくなり、どんどん洋服作りにのめ

工房の名前「un peu（アンプ）」は、フランス語で「少し」を意味する言葉。何気ない毎日に笑顔を「少し」プラスできるようにとの意味が込められています。工房といっても、利府町菅谷台の住宅街の一角、看板もないごく普通の一軒家。自宅の一室をアトリエとして使い、洋服を作っています。一児の母であり、洋服を作る「職人」でもある鈴木さやかさんにお話を伺いました。



思いを 共有できる場を この町にも

これまで、こだわりの洋服作りをしてきた鈴木さんですが、「手作りだから良いんだと考える人もいれば、手作りだから安いんだという人もいます。材料などにこだわると下げられない値段というものがあるので…」と販売の難しさも感じています。そんななか、仙台的の期間限定セレクトショップchocol（チョコレート）で活動する作家との出会いは、とても刺激になりました。い

り込んでいったのです。

初めて洋服を作った翌年には、仲の良いママ友3人で、一緒にハンドメイド作品を作って幼稚園のバザーに参加しました。その勢いでフリーマーケットなどに作品を出店するようになっていきました。しかし、3人で活動することで作業を分担でき、数や種類を揃えることができるというメリットがある一方、好きな作品を自分のペースで作れないという悩みが生じてきました。

いろいろ考えた末、2008年に独り立ちを決意。翌09年に利府町に引っ越したのを機に、本格的に一人で活動を開始し、家族に支えられながら精力的にオリジナル作品を生み出してきました。



利府町で暮らす面白い人を毎月ひとりずつ紹介していきます

十符（とふ）とは？ ……昔、利府町の湿地帯には、良質な菅（スゲ）草が自生し、「菅藁（スガコモ）」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅藁の編み目が10編あることから「十符の菅藁」と呼ばれ、みもの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十（と）が利（と）に、符が府に変わったと言われています。

平岡凜さん

〈tsumikiライター塾〉発
高校生ライターがチャレンジ

利府町の中心というと、どういった場所が思い浮かぶでしょうか。多くの人でにぎわっている場所、町の機能が集まる場所、心の中で大切にされている場所。いろいろな考えが広がると思います。そこでtsumikiライター塾を受講した高校生ライター・平岡凜さんが、利府町内に住んでいる4人の方々にインタビューしました。

Q “利府のへそ” って、どこだと思いますか？

A 館山公園 成人男性 O さん

利府小学校裏にある館山公園。昔、お城があったことを知っていますか。鎌倉時代、源頼朝の家臣に同行してこの地に来た村岡氏が、利府城を築いたと言われています。その後、豊臣秀吉に廃城されるまで、伊達家の一族が合戦の拠点として使用していたそうです。現在は桜の名所として知られ、春にはお花見をする人が多く見られます。一方で、ウソという鳥に桜の蕾を食べられてしまう被害も発生しています。駐車場の拡大や霊園の併設など、町民の憩いの場として新たな形で使用される準備が進んでいるようです。



A イオンモール利府店 周辺

主婦 O さん

利府イオン周辺は、大型商業施設や日用品店がそろっていて、買い物に便利です。生活・暮らしの“へそ”として、にぎわっています。日用品の買い物以外にも、映画館や多くの洋服店などで楽しい時間を過ごせるので、町内外のたくさんの方が足を運んでいます。

A 図書館 高校生 S さん

読書量の多い学生にとって図書館は欠かせない存在です。知や文化の“へそ”と言えます。子ども向けのおはなし会や、お年寄りの方々がのんびりと語らう場も設けられていて、世代を問わず楽しめる場所になっています。季節に合わせた本の展示も魅力的。十符の里プラザに併設された小さな図書館です。



A グランディ 21

高校生 N さん

さまざまなイベントが開催されているグランディ21。有名アーティストのコンサートや、陸上競技大会の際には特ににぎわいます。また、秋には「十符の里フェスティバル」が開催され、多くの出店やブラスバンドの演奏、消防署の特設コーナーなどで盛り上がります。イベントのない日には、アスレチックを楽しんだり、犬を連れてのんびりと散歩することもできます。

このように、利府町の中心といっても人によってさまざま。自分なりの“へそ”を考えてみると、この町について新たな発見があるかもしれません。

利府のへそを探せ!!

tsumiki セレクトショップ 新装開店！

tsumiki では、地域に根ざしたお菓子や雑貨などの委託販売をしています。平成29年度の委託販売出店者が決定しましたので紹介します。今回の委託期間は4～7月までの4ヶ月間。ぜひ、一度ご覧ください。

🍷 Pâtisserie Hacchi ハッチ 〈焼き菓子〉

菅谷台ニュータウンにお店を構えています。人気の焼き菓子やクッキーをチョイスしました。館内で、コーヒーや紅茶と一緒に楽しみてください。お持ち帰りも可能です。



🍷 レーブ・ド・ルピナス 〈焼き菓子〉

利府町花園にあるお店では、利府の梨を素材としたお菓子も数多く商品化しています。ふんわり柔らかな焼き菓子を中心に揃えています。お持ち帰りも可能です。



🍷 Bagel&Bread spica スピカ 〈スコーン〉

利府町青葉台にあるパン工房です。こだわりの材料と季節の素材で焼き上げるパンは定評。tsumiki では、サクザクした食感とスクエア型が特徴のスコーンを販売します。



🍷 INAGO BALL イナゴ ボール 〈陶器〉

豆皿、ぐい飲み、湯のみなど、独特の色合いや風合いがおもしろく、味のある焼き物です。利府町内を中心に活動中。チャレンジマーケット「こ・あきない市」の参加者です。



🍷 fem フェム 〈リメイク雑貨〉

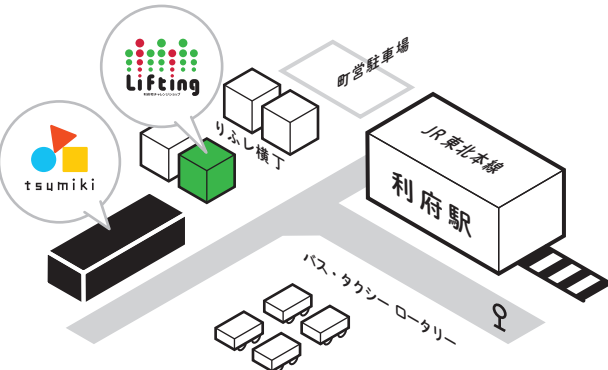
不要な缶や、家にある何気ない物を、インテリアに変身させる発想と技術が面白い作品です。リメイクすることで、日常の生活が楽しくなる提案をしてくれます。



利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町（政策課政策班）

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。政策課政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

管理運営（業務委託者）一般社団法人 Granny Rideto

Granny Rideto（エスベラント語）は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト

rifu-tsumiki.jp

Twitter

@rifu_tsumiki

Facebook

〈tsumiki〉で検索

Instagram

@rifu_tsumiki